

Ⅲ 平成30年度「体育・スポーツ推進計画」主要施策の実施状況

基本施策（6つのリンク）別総括

（記載様式1号）

リンク E 東京オリンピック・パラリンピックを契機としたスポーツの推進

施策1 オリンピック・パラリンピックアスリート強化・支援

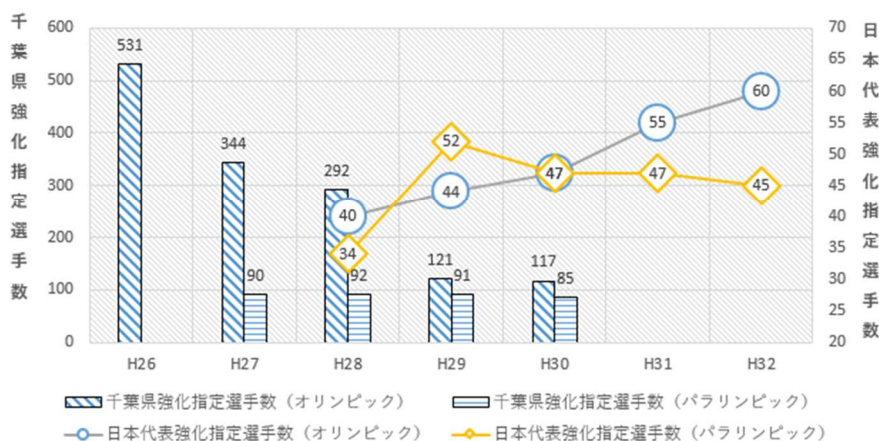
目標・方向性 千葉県ゆかりの選手を一人でも多く輩出する

ア ジュニア世代選抜選手や障害者スポーツ選手の競技力強化の推進

イ 障害者競技組織の体制整備と障害者スポーツ選手の掘り起こしの推進

基本指標	現状(H29)	達成状況(H30)	目標(R2年)
○日本代表強化指定選手数			
オリンピック	44人	47人	60人
パラリンピック	52人	47人	45人

千葉県強化指定選手数及び日本代表強化指定選手数



（総括）

ア ジュニア世代選抜選手や障害者スポーツ選手の競技力強化の推進

- 東京オリンピック・パラリンピックアスリート強化・支援事業

【オリンピック部分】

東京オリンピック実施 33 競技で、各世代日本代表や全国大会上位者などの基準をクリアした 117 名を強化指定し、海外遠征や強化合宿などの活動に支援しました。

【パラリンピック部分】

東京パラリンピック実施 22 競技で、各世代日本代表や全国大会上位者などの基準をクリアした 52 名を特別強化指定し、また、県選抜選手や県大会上位者などの基準をクリアした 33 名・2 団体を基礎強化指定し、海外遠征や強化合宿などの活動に支援しました。

イ 障害者競技組織の体制整備と障害者スポーツ選手の掘り起こしの推進

- 障害者競技組織の体制整備

一般社団法人千葉県障がい者スポーツ協会に障がい者アスリート部会を設置し、有力選手の調査・把握や競技団体の育成などを行い、支援体制の強化を図りました。

- 障害者スポーツ選手の掘り起こし

運動能力の高い障害者が、競技への興味・関心を高め、競技に参加できる環境を作るため、14 競技で 22 回の競技体験会を実施しました。

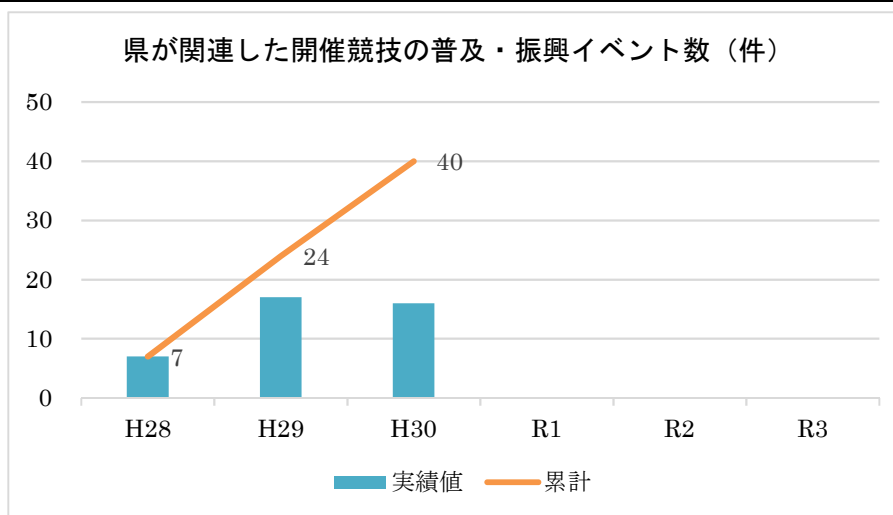
施策2 スポーツを通じたネットワークの充実・拡大

目標・方向性 スポーツを通じた地域づくりを推進する

ア オリンピック・パラリンピック教育の推進

イ 積極的なスポーツ交流への参画

基本指標	現状 (H29)	達成状況 (H30)	目標 (R1)
〇県が関連した開催競技の普及・振興イベント数	24回 (累計)	16回 (H31.3.31 現在)	23回 (累計)



(総括)

- ・ 本県で開催されるオリンピック・パラリンピック競技について、県民の競技に対する理解を深めるとともに、大会に向けた機運を高めるため、両大会の開催2年前を記念したイベントをはじめ、県民の日行事における体験会や、経済団体・市町村等と連携した競技紹介・体験イベント等16件を実施しました。
- ・ また、日本オリンピック委員会によるJOCオリンピック教室や、日本財団パラリンピックサポートセンターのパラスポーツメッセンジャーによる講演を、両団体と連携して実施しました。
- ・ このほか、県内開催パラリンピック競技の普及の担い手を育成するため、大学生向けに研修・体験会を実施し、参加者はパラスポーツ体験会の講師やボランティアスタッフとして活動しています。

・ オリンピック・パラリンピックを活用した教育推進

東京オリンピック・パラリンピックの開催は、子どもたちに、スポーツへの関心はもちろん、思いやりや多様性の尊重、国際平和に寄与する態度などを育てていく上で、千載一遇の教育機会と捉え、これらの教育的価値を「おもてなし」、「心のバリアフリー」、「スポーツ」、「グローバル」の4つのプロジェクトで整理した、千葉県オリンピック・パラリンピックを活用した教育の取組方針を平成29年4月に策定しました。

平成30年度は、取組方針に基づき、オリンピック・パラリンピック教育推進校を65校指定し、各校で様々な取組が行われました。具体的な事例としては以下の通りです。

「おもてなし」：おもてなし等に関する講演会、地域ロードレース大会のボランティアスタッフ参加、各国代表チームとの交流、花いっぱい運動、あいさつ運動等に取り組みました。

「心のバリアフリー」：障害者スポーツを通じた特別支援学校と小中高校との交流、スポーツ義足体験、福祉体験学習、ブラインドウォーク、車いす体験等を行いました。

「スポーツ」：水球、ウェイトリフティング、フェンシング、ゴールボール、ボッチャ、車いすバスケットボール、アンプティーサッカー等の体験やオリンピック等の講演会を開催しました。

「グローバル」：オリンピック・パラリンピックの精神を英語で学習、世界の料理を給食で提供、訪日外国人に対して日本の伝統文化の説明を行う等に取り組みました

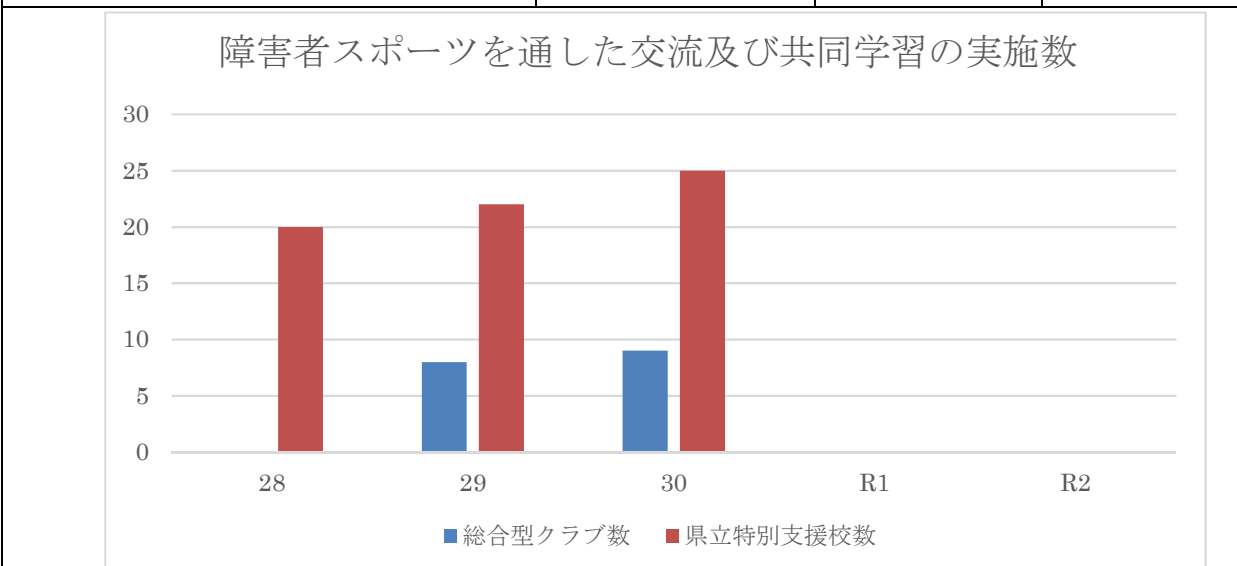
施策3 誰もが参加できるみんなのスポーツの推進

目標・方向性 共生社会に向けたアプローチを推進する

ア アスリートの活躍する場

イ 共生社会実現への取組

基本指標	現状 (H29)	達成状況 (H30)	目標 (R3)
障害者スポーツを通じた交流及び共同学習を実施したクラブ・学校数			
○総合型クラブ	8クラブ	9クラブ	経年増加
○県立特別支援学校	22校	25校	22校



(総括)

- ・ 障害者スポーツを活用した交流活動

地域や近隣の学校と障害者スポーツを通じた交流を行い、障害者スポーツを普及するとともに、障害のある子供たちと障害のない子供たちがお互いに個性を認め合い、共生社会の形成に貢献しました。

- ・ オリジナル障害者スポーツの開発

研究指定校では、知的障害のある児童生徒が楽しむことができ、かつ取り組みやすいルール取り入れた新しいスポーツを開発しました。